

ご存じですか？
うつくしま、ふくしま。
豊かな自然を生かした
心ふれあう
ふるさと交流圏—
南会津地域の街道の
むかしがたり。

南会津の街道



21世紀の新しい生活圏
うつくしま、ふくしま。

福島県南会津建設事務所

山越えのみちのく路-南北2ルート

■関東～鬼怒川・大川ライン～会津盆地を結ぶ、南会津東部「南山通り」

会津の南山(みなみやま)通りは南会津地域東部を南北に貫く広域幹線道路で、江戸時代の会津藩5街道の1つ、下野(栃木県)街道。南会津地域の北端・火玉峠から南端の山王峠まで、大内、田島、河島、糸沢の4つの宿駅を連ねて、会津盆地の城下町若松と関東地方の日光道中(幕府の五街道の一つで、江戸日本橋と結ぶ)今市宿(栃木県)を約32里で結んでいます。日光街道とも称し、関東では会津西街道と称しています。

南山とは南会津地域東部の古称でしたが、幕府の直轄領となった南会津周辺一帯の呼称となり、「南山御蔵入」と称しました。

江戸と結ぶ大名の通路となる会津藩の表街道は、会津地方で白河通りや江戸街道と称した幕府の脇街道・佐渡路会津通(会津街道)～白河宿～奥州道中(幕府の五街道の一つで宇都宮から日光道中と合流)を經由。この道を、関東では会津東街道と称していました。

■関東～尾瀬～伊南川ライン～越後を結ぶ、南会津西部「沼田街道」

南会津西部を南北に貫く街道は、伊南川の谷一筋に只見、黒谷、和泉田、古町、檜枝岐の5つの宿駅を連ねて、越後(新潟県)～南会津～関東地方上州(群馬県)の拠点・沼田を経て、京都と東北地方を最短ルートで結ぶ古くからの重要路線。上州では会津街道と称し、江戸幕府を開いた徳川家康は、いち早くこの街道に番所を設けたほどです。

会津ではこの尾瀬越えの道を上州街道と称していましたが、明治時代の大改修のとき、伊南川下流の越後街道、只見川沿いの伊北街道を含めて県道沼田街道となりました。

峠越えの交流路-東西2ルート

■南会津地域の中央に横たわる七ヶ岳の鞍部に刻む街道改良史

山国の会津地方では、100余りの峠道で人里を結び、外界と通じています。南会津地域の中央にも、阿賀川(大川)流域と伊南川流域の東西地域を隔てる1000m級の険しい山岳が横たわっています。

東部の下野街道と西部の沼田街道を結ぶおもな峠道は、この難関・七ヶ岳の南端の鞍部に中山峠、北端に駒止峠が拓かれており、交通手段の移り変わりに伴う街道改修の苦闘史を刻んでいます。

この4ルートが、現在でも地域の骨格をなす幹線道路です。

江戸時代の会津は、23万石会津藩領の会津盆地周辺およそ734村、5万5千石の南山御蔵入領271村(当時の会津郡の南会津170・下野国塩谷郡6・大沼郡97)に分けられ、かつての会津領である越後の魚沼天領約3千石も預かって、ほぼ会津藩の私領同然の預かり地となり、街道群で結ばれていました。





南会津は険しい峠道で東西に二分されており、その峠道の解消が地域の悲願でした。麓で1寸、峠で1尺…、豪雪の駒止峠を越す運送隊。難儀しながら生活物資を運んでくれましたが、数々の遭難の悲話を刻みます。

3 南会津の街道 車時代の道づくり



南会津の道の改良史は、トンネル掘削のあゆみ。たとえば、駒止トンネルは最短ルートの古道直下に掘削され、カーブミラーが88もあるつづら折りの峠道を解消し、5kmも短縮しました。

★1862年(文久2) 幕府が、街道すじでの荷車や馬車の使用を許可する。
★1876年(明治9) 国道・県道・里道の制度ができ、南山通りが10号県道会津街道若松-宇都宮線となる。

1878
明治11年

★たとえば、越後街道の南会津・越後国境の里道・八十里越。交通機能低下を恐れた南会津の地域住民により延べ587人を動員して、牛馬が通れる道に改修する。

★八十里越の新潟県側、1890年(明治23)に県道認定。福島県側は、1895年(明治28)に県道認定の上申書提出。

1880
明治13年

★八十里越。福島県による延べ10万人を動員し、道幅1間~1間半、車馬の通れる「中道」に付け替える。

★1882~84年(明治15~17) 10号県道会津街道(日光街道)など会津三方道路(幹線道路)総延長213kmを開削。1885年(明治18) 東京~宇都宮間の鉄道開通し、駅と結ぶ人力車が普及する。

1884
明治17年

★福島県により、南会津東部の日光街道(南山通り)を幅4間道路に大改修し開通。若松から栃木県横川村までの68kmに延べ35万人を労役動員する。

★伊北越後街道の駒止峠、1895年(明治28)に県道、1969年(昭和44)国道289号認定。
★館岩街道の中山峠、1923年(大正12)に県道、1974年(昭和49)国道352号認定。

1886
明治19年

★1886年(明治19) 南会津西部の伊北~伊南~館岩ルートの三郷街道約48kmに5万人を動員して大改修。
★1887年(明治20) 駒止峠の新道開削。
★1887年(明治20) 中山峠の新道開削。

★1899年(明治32) 郡山~会津若松間に鉄道開通。鉄道網の拡大に伴い、交通流が激変していく。
★1934年(昭和9) 会津線が田島まで開通。

1894
明治27年

★福島・新潟両県が協議し、八十里越の新道開削。

★1953年(昭和28) 大規模な道路整備5ヶ年計画始まる。県道を主要地方道と一般県道に分けられる。このとき日光街道が2級国道、1965年(昭和40)一般国道となる。

1963
昭和38年

★のちのR352松枝岐村七入~御池間開削。奥只見ダム建設に伴う大津岐林道の付け替え道路であった。

★六十里越、1962年(昭和37)に2級国道、1965年(昭和40)に国道252号となる。

1973
昭和48年

★R252六十里越トンネル開通。延長710m、総工事費約100億円。
★R289八十里越の改築事業着工。現在、国直轄により県境の交通不能区間・越後山脈越えを延長3.1kmのトンネル化等工事中。

★関東~山王峠~中山トンネル~館岩~檜枝岐~越後ルート、国道352号認定。

1974
昭和49年

★R352中山トンネル開通。延長503m。

★白河~甲子峠~田島ルート、1929年(昭和4)県道、1969年(昭和44)国道289号認定。

1975
昭和50年

★R289甲子峠道路の改築事業着工。現在、国直轄により交通不能区間の峠道・奥羽山脈越えを延長4.3kmのトンネル化等工事中。

★1974年(昭和49) 東北自動車道の西那須野塩原IC開設。
★1988年(昭和63) R401尾頭トンネル(栃木県塩原町)開通、高速道路アクセス改善。

1980
昭和55年

★R121山王トンネル開通。延長258m。

★白河~甲子峠~田島~駒止峠~八十里越ルート、1969年(昭和44)国道289号認定。

1982
昭和57年

★R289駒止トンネル開通。延長2010m。総工事費84億円。道路トンネル工事では日本初のナトム工法を導入、今日の標準工法となる。

★1993年(平成5) 須賀川~岩瀬街道~下郷ルートを、国道118号認定。
★1993年(平成5) 3月福島空港開設。

1987
昭和62年

★R118蟬トンネル開通。延長800m。
★1989年(平成元) R118枝松バイパス開通。延長1,900m。

★1981年(昭和56)、尾瀬~伊南川~南郷村鳥居峠ルート、国道400号認定。
★1982年(昭和57)、栃木県塩原~田島町舟鼻峠ルートを、国道401号認定。

1992
平成4年

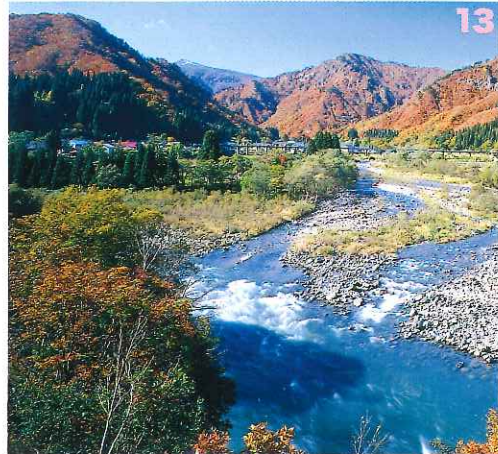
★R401舟鼻トンネル開通。延長625m。

海底の火山灰層が隆起した会津地方の地山は柔らかく、盤膨れを起しました。道路トンネルでは我が国初のナトム工法により、長いピンを地山一面に刺し込みながら掘削し貫通しました。

1971~82年(昭和46~57)の12年がかり。当時では県下一長い駒止トンネルで、悲願の南会津地域東西地域の一体化を実現。八十里越や甲子峠のトンネル化による地域間交流の促進へと、夢がふくらみます。



越後山系の花 ユキツバキ
 雪解け後の5~6月頃、
 六十里越や八十里越の峠道には
 ピンク系で一重のユキツバキが
 一面に咲き誇ります。



●カラムシと塩の道 六十里越

浅草岳の南側を越す六十里越は、浅草峠とも称された標高863mで、現在のR252トンネルの真上。只見川の谷底から比高約400m。足が震えるほど急峻で、ついに牛馬は通れませんでした。越後山脈越えの最短ルートの峠道で、ふもとの村里の間は約6里ですが、急な斜面を拓いて伝う山道はつづら折り、10倍の道のりにも思えたとか…。より平坦なルートへと幾許も変遷します。御蔵入の特産・カラムシ(青苧)は、この難関を越して40里、小千谷方面名産の越後縮(ちぢみ)となり、特に白縮は会津産に限ったといわれます。将軍家御用縮で、カラムシ織りは武士の式服の麻袴に指定されたものです。さらに、信濃川の船道・長岡の城下町、カラムシ積み出しの港町・柏崎とも結んでいます。背負子(しょいこ)の帰り荷はおもに食用塩でした。

★峠道の名の謎

奈良時代の頃には、1日に馬70里、歩50里、車30里を荷役の基準とし、300歩(1歩=6尺)を1里としていました。当時の1里は1800尺(当時の1尺は約0.3m)で約540m。1町(陸の意)は60間(1間=6尺)なので、1里はわずか5町(360尺)となります。1里を6町としたこともありました。後の世、江戸時代の頃から1里=36町に統一されます。八十里越や六十里越は、それ以前の大昔から拓かれていた峠道のようなのです。

15

★司馬遼太郎の歴史小説『峠』の舞台

八十里越は、数々の秘話に包まれています。たとえば、平清盛の命で木曾義仲討討へ向かう会津磐梯山麓・慧日寺の僧兵3千の峠越え。伊達政宗の南会津侵攻のとき、越後上杉景勝勢の会津方援軍3千の只見入り。それに作家・司馬遼太郎の『峠』物語にくだしいように、明治維新の会津戦争で、銃弾で足を傷つけた越後長岡藩総督の家老・河井継之助が戸板に乗っての壮絶な峠越え。河井は、この新政府軍と旧幕府軍の戦争で、前代未聞の長岡藩中立を宣言。聞き入れられず猛攻を浴びて城下町は壊滅します。激怒した長岡藩士が会津方で奮戦ののち河井は退去令を出し、難民に紛れて八十里越を登り、会津へ退避して峠のふもととの村里で養生中に「八十里こしぬけ武士の越す峠」の句を残して息をひきとります。

最後の武士と謳われた河井。1862年米人ガトリングが南北戦争中に発明した機関銃。1分間に200発も発射できました。継之助は、この最新兵器を2門購入し官軍の黒拳に抵抗しました。(只見町・河井継之助記念館蔵)



●六齋市でにぎわった伊南の里

1185年頃、ついに平氏を倒して鎌倉幕府を開いた源氏の総大将・頼朝は、御家人のなかでも屈強の側近であった下野国の小山3兄弟の長男に白河関方面、3男に勿来関方面、そして、日本海側の海道・念珠(ねず)関に通じる①栃木県鬼怒川～南山通りルートを2男の宗政(長沼氏=居城は田島)に、②群馬県沼田～尾瀬～伊南川の上州通りルートに同族の河原田氏(居城は伊南)を配して奥羽3関の守りを固めます。現在の伊南村は上州通りの中心地となり、特産の伊南細布(さいみ=麻とカラムシの混紡)などの交易でにぎわいます。



18



17 ●谷一筋の南会津西部 伊南川流域

「ふくしまの水30選」の鱒沢渓谷(館岩村)など、南会津と関東地方の分水嶺・帝釈山脈を源流域とする伊南川。南会津の西部地域は、約20間幅の清流の兩岸に、大きな村里を列ねています。古くは、写真の右手に西側道路、対岸に東側道路と称する街道があり、カツラやケヤキの板をつないだ一本橋で幾か所も結ばれていたのです。東側道路に沼田街道として固定されたのは、明治維新後の大改修のときです。

★都人・以人王の逃避行伝説の道

平安時代末期の1180年、京都宇治川の合戦で打倒平氏の初の挙兵に失敗。源平合戦の口火を切ったヒーロー・以人王の逃避行伝説は、列島中央の東山道から上州沼田を経て、尾瀬から檜枝岐村へ入り、南会津全域を巡って多彩なエピソードを残し、只見の八十里越から越後平野へ下っていきます。

17

●もう一つの驚き馬 扮中付

沼田街道には、檜枝岐村の駄場(だんま)こと「扮(そぎ)中付」の荷馬が往き交いました。尾瀬の奥山特産のヒノキの小羽板などを、はるか25里、若松の城下へ運んで城内外のお屋敷の屋根に葺かれます。帰り荷は、檜枝岐では稔らない食米などの生活必需品に限られていました。

21

●国天然記念物 尾瀬の長蔵小屋

沼田街道は、約8km2の日本最大の高層湿原地帯・尾瀬のお花畑を突っ切って、群馬県の市場町・沼田と結んでいます。尾瀬沼のほとりの長蔵小屋は、関東地方との交易の中継小屋の跡。周囲の峠道は険しく、荷馬も軽尻といって平地の半分。背負子(しょいこ)が運ぶことが多かったようです。

●檜枝岐口留番所

檜枝岐名物の六地藏の近くに会津と上州の国境の口留番所があって、高さ1丈(約3.3m)横2間の木戸を設け、その左右を通れないように柵木60本を立てました。木戸門のそばに長さ2間横9尺の下番所があって、通行人の錠を示した制札が立っていました。

●追分け 山口三方口の道標

南郷村の三方口と称するT字路には、切り石の山状角柱道標があって、正面に「是 川志り 伊北 越後道」、右横に「是 立岩 上州道」、左横に「是 田しま 若まつ 江戸海道」、裏面に「天明5年(1785)乙巳7月吉日」とあり、海道、山道、街道の名ゆかりの床しい文字「海道」が刻まれています。山国会津では都言葉の「街道」の字句は似つかわしくなかったようです。街道の名は行き先を冠したため、駒止峠の街道は、幕府直轄領・南会津の陣屋の町と結ぶ田島街道、会津の都と結ぶ若松街道、徳川幕府と結ぶ江戸街道とも称しました。



20



●西玄関口 八十里越

浅草岳(1585m)北側の八十里越は界沢とも称された会越国境の難関で、8里が10里にも思えたという…。幾すじも変遷しながら、越後山脈の標高845m・木ノ根峠(境沢峠)を越して、越後平野の金物の町・三条や燕、袖(つむぎ)の町・栃尾方面、信濃川舟道の城下町・長岡、それに千石船の港がある寺泊や新潟とも結んでいました。



●会津藩 叶津番所跡

江戸時代の会津領には番所が12。幕府からの預かり地・南山御蔵入には8か所ありました。越後山脈越えには六十里越の田子倉、八十里越の叶津(かのうず)の2つが只見川沿いの村里にありました。口留番所と称し、ウルシ、ロウ、鉛、駒、紙など8品の移出を禁じるなど、交易を調整しました。



南会津の街道は、四季折々の表情が豊かです。たとえば、可憐なヒメサユリは日本固有種で、会津・越後・米沢の国境一帯にしか分布していません。

東へ。西へ。街道漫策。



南会津の街道散策の楽しみは、温泉めぐり！多彩な温泉場が、ほぼ街道すじに点在しています。

2 街道 南会津の

探訪 まっぷ



●標高1100m 駒止峠
 「駒戸」改め「駒止」の名は、仁人王の乗った馬が険しい峠道で立ち往生したとか、峠で馬を止めて奥会津の眺めに見とれたといわれる伝説にちなみます。駒止峠のルーツは、田島～伊南川北上～檜枝岐～尾瀬を結ぶ上州道・伊南街道、同じ田島～伊南川南下～只見～八十里越を結ぶ越後道・伊北街道の2すじあります。平坦な道を求めて約30曲りもの駒止峠が開削されるのは、車馬が普及する明治維新後のことでした。当初約1.5mの道幅が序々に写真のように改良されて4mに拡幅。カーブミラーが82基も設置され魔の峠道と怖れられました。



★街道の馬子唄が下郷甚句に唄い継がれています。
 大内や峠は 涙で登る 泣いた涙が 沼となる 朝の出がけに どの山見ても 霧のからぬ 山はない 大内子安の 観音様よ 前の宿場を 目の下に 大内峠のおさんが茶屋は 酒は高売り 高清水 大内宿場は 昔のなごり 心とどめて 今もなお



●標高1140m 中山峠
 峠道を登る以人王が竹杖を所望すると、村人に小柴栗という木の枝を差出されて珍しが「みちのくの南の山の小柴栗 大宮人は知らで過ぎゆく」と詠んだと伝えられ、現在のたかつえ高原の旧称・高杖原の名が生まれたといわれます。

たかつえ高原から眺める大パノラマ、尾瀬の燧ヶ岳や会津朝日ヶ岳も眺望できます。

●中央宿駅 田島の祇園祭
 当番御屋敷により、神社の氏子組が順番に神主役をつとめる古式楽しい神事で国重文。1年がかりの行事で、クライマックスは7月の七行器(ななほかい)行列、神輿渡御行列、歌舞伎屋台の曳き廻しなどで大賑わい。伝染病退散を祈願する一大民俗絵巻で、宿場の街道に繰り広げ続けて800年の伝統を誇ります。田島は、嶋山城の城下町、南山御蔵入領の陣屋の町、下野街道の中央宿駅の3つの顔をもっています。現在の町役場付近が田島陣屋跡、東邦銀行付近が検断・問屋を兼ねた本陣跡です。



街道すじに神輿の渡御を知らせて廻る御支度触れ。



会津盆地

氷玉峠

大内沼

大内宿

小野水

南山通り
(下野街道)

田島



2

●下野街道 氷玉峠

文化庁指定「歴史の道百選」の氷玉峠。南会津と会津盆地の境界の尾根の標高910m大内峠～866m氷玉峠の一带を指します。阿賀川の大峡谷を避けて400年以前の武士の争乱の世に拓かれた南山通り(下野街道)は、関東で会津西街道と称する会津5街道の重要路線で、発掘調査してみると、幹線道路にふさわしく道幅1間半の石量が敷いてありました。峠の名は、古来の「火」を忌み嫌った領主が「氷」と改めさせたといわれます。



南会津は野鳥の楽園。春の街道すじは、のどかなウグイスのさえずりに包かれています。



3

●国指定の保存地区

大内宿

全国53指定の伝統的建造物保存地区の1つ。散在していた村が集められて形成した昔の宿駅のままに、中央に用水の堀割りが施された5間幅の街道沿いに間口割3間の茅葺き屋根が軒を列ね、本陣も復元されています。若松まで5里16町。



6

●南山通り 楢原駅

北の倉谷駅まで32町、南の田島駅と1里34町で結んでいます。会津の常宿駅が整備されたのは、慶長6年(601)。江戸時代の会津領には、主な街道の約2里ごと約69の駅がありました。下郷の地頭ゆかりの古館跡・楢原駅は、付近の村が集められた44軒が、整然と町割りされて始まりました。



南会津の街道は、谷ひとすじ。たとえば、生そば! 清流生まれの涼風が育む郷土食が旅情をいやします。



●御城下10里 田部原一里塚

大川の長野渡しと田島宿の間にある若松の札ノ辻の塚から数えて12基目とされる一里塚です。江戸の日本橋を起点に築き始め、会津の若松城までは65里。会津藩でも、寛文7年(1667)1里を6町から36町制へ切り替えたとき築いたものです。



4

●大川溪谷 塔のへつり

南山通りの原風景は、会津の母なる大川沿いの道でした。宇都宮街道沿いの塔のへつりは、高さ100mの仏塔風奇岩怪石が屏風絵のように並んだ景勝の地で、国天然記念物。その岩肌をえぐった通路が残っています。道のある岩場を、会津では「へつり(横切る意)」と呼んでいます。



5

●会津中街道 嶽観音堂

日光大地震で鬼怒川上流に山崩れがあって、五十里宿周辺が湖と化した下野街道にかわって、大川沿い～標高1468mの大峠～那須越えの険しい道をわずかひと月で開削します。人夫5万人を動員し、奥州道中の氏家宿まで、若松の城下から約31里で結びました。江戸まで7里も近かったこの新道を、松川通り、宇都宮街道と称し、関東では会津中街道と呼んでいました。大名行列も一度だけ通りましたが山岳道路の補修が大変で、公道としては4年しか使われませんでした。御蔵入最大の野際口留番所が設けられ、近くに「野際の観音様」と呼び親しまれた御蔵入33観音13番札所があります。駅馬や驚者馬の守りであった馬頭観音として有名です。



山王峠
水御道
川損地

隼山城

大川
(阿賀川)



●街道名物 中付驚者馬

下野街道の中央宿駅・田島には、宿駅間を継ぎ送る駅馬が100頭も常備されていました。それに「驚者(どじゃ)馬」と呼ぶ、近郷の農民の飼馬が行き交いました。中付驚者として、宿継ぎをしないで自分の荷を今市の市場などへ直接運んで売ることが許され、田島だけで600頭を数えました。田島町では、「御蔵入の里」に街道の馬宿を復元保存しています。



10

●南玄関口の 山王茶屋

江戸時代初期にはじまる山王峠越えの茶屋づくり。宿場の本陣と同じ構造の千鳥破風乗込みがあり、会津藩主のお休み処でした。徳川家康の孫を藩祖とし、その日光廟廻りを兼ねて、幾度か大名行列が通りました。